



学校・幼稚園における 食物アレルギー対応の手引き

大分県版

大分県地域保健協議会

はじめに

食物アレルギーの増加に伴い、アナフィラキシーに対する緊急対応を求められる機会が、家庭、保育、教育、医療機関等でも増えている。平成 25 年度の文部科学省の調査によると、学校における食物アレルギーの罹患者は小学生 4.5%、中学生 4.8%、高校生 4.0%、アナフィラキシーの経験者は小学生 0.6%、中学生 0.4%、高校生 0.3%とされている。厚生労働省によると、日本における食物によるアナフィラキシーでの死亡数は 1996-2001 年の 15 名から、2006-2011 年は 27 名と増加しており、その中には学校給食での死亡事故もあった。

アナフィラキシーは、それまで食物アレルギーの診断を受けていなかったにもかかわらず、学校給食で初発する場合や、給食とは関係のない、家庭科、体育や部活、登下校の時間にもみられているため、給食を提供していない学校や食物アレルギーの診断を受けている児童生徒がいない学校でも備えが必要である。

学校、幼稚園での食物アレルギー、アナフィラキシー対応として必要なこととして、園医、学校医、主治医による学校生活管理指導表の記載と専門医などへの紹介、専門医などによる詳細な診断、保護者との面談による対応食の決定、調理場での対応食の調理、教室での配膳、そしてアナフィラキシーが生じた場合の緊急対応、給食以外の注意点の理解などが挙げられる。

それらを標準化する目的で、今回、大分県版「学校・幼稚園における食物アレルギー対応の手引き」を作成した。学校、幼稚園、医療機関のみならず、保育所等、園児・児童生徒が集団生活を送る場でも活用していただき、食物アレルギーの園児・児童生徒が、安心した生活が送れ、給食を楽しめるようにしていただく一助としていただきたい。

なお、本手引き中の記載は、「児童生徒」、「校長」、「校医」で統一しているが、幼稚園、保育所の場合は、「園児」、「園長」、「園医」等に読み替えて活用いただきたい。

平成 29 年 3 月 7 日
大分県地域保健協議会 学校保健小委員会
アレルギー対策専門委員会
委員長 是松聖悟

学校・幼稚園におけるアレルギー対応の手引き（大分県版）

< 目 次 >

第1章 食物アレルギーとは	5
第2章 食物アレルギーを有する児童生徒への対応	17
第3章 学校給食での対応	33
第4章 医療機関での対応	43
第5章 食物アレルギー発症時の対応	53
学校における学校給食での食物アレルギー対応の実態調査結果	67
Q&A	91
様式集	97
参考文献	125

- 【付 録 C D】
1. 様式集
 2. 基礎知識
 3. 学校生活上の留意点
 4. 対応の手順
 5. 災害時の対応
 6. 食物アレルギー実態調査2016